

コミュニティとその持続可能性(サステナビリティ) に関する研究 序論

川 村 健 一

目 次

まえがき

1. 持続可能な（サステナブル）コミュニティとは
 - 1.1 人々の希求（パラダイムのシフト）
 - 1.2 経済のシステムから持続可能なコミュニティを考える
2. コミュニティの持続可能性（サステナビリティ）の評価を考える
 - 2.1 持続可能性の評価に用いる住民の意識調査
 - 2.2 長野県飯綱町における持続可能性の評価に関する調査
 - 2.3 広島県内の2地区における持続可能性評価の調査
3. まとめ

（参考資料）

参考資料1：持続可能な（サステナブル）コミュニティの理念

- (1) アメリカにみるコミュニティの理念：アワニー宣言
- (2) 青森県むつ市大畑町にみるコミュニティの理念：大畑原則

参考資料2：ビレッジアプレイザル 飯綱町簡易版

まえがき

モロッコ、カサブランカからマラケッシュに向かう車窓を、古くからアフリカに住むベルベル人とペルシャ、モスレムとの混血の人々の営むコミュニティの景色がよぎる。春先のアトラス山脈に続く北斜面は地中海の影

響で緑豊かな黄色の花咲く野である。牛が、気持ち良さそうに草を食み、人々は1000年以上に及ぶ長い歴史を感じているのか不明であるが、変わらず時間の観念など無く、その刻、その刻を豊かに楽しく生きているように思える。かつて、イスラムの聖戦に組み込まれた人々が、遙かペルシャの地から数年かけてこの地に至った。ある者は、さらにジブラルタル海峡を渡りスペイン、ポルトガルの地に進み、アルハンブラ宮殿などに代表される幾つかの城郭都市を興した。ある者は、この地に留まり一列に並べた石やサボテンで外部と隔てた粗末な家で生活を営むようになった。ひとつの家族が生活を始め、水、食物、住居、全ての生きる糧をこの地に求め、家族の中での自給自足の生活＝コミュニティが始まった。コミュニティとは、人が生きる為に協働する最小のユニットと習ったことを思い起こす。点在するこれらの家に小さくて安心して豊かな循環社会“小国寡民”を感じた。未だに、車も無く、ロバと馬車、せいぜい自転車の生活、素足で走り回る子の笑顔に1000年余の長い時間を経ても変わらぬ豊かな生活の歴史を感じる。まさに“無為自然”か。住み始めてから、生活を営む家族の幾つかが農作業を協力するようになり、より大きな農地を共同で運営し余剰の農作物を売ようになった。得た貨幣で幾ばくかの必需品（労務者も含む）を得るようになると、住居が増えて大きなコミュニティを構成するようになる。また、住民間での分業が起こり、家族で営む農地から人々の集うモスク（寺院）周辺に移り住みサービス業、小売業を営む人々が生まれ、モスクを中心にしたマラケッシュのような大きな町を形成するようになったのである。これらの豊さと安心を求めてのコミュニティの成長は、やがて、モロッコからポルトガルを経てスカンジナビアの地で都市を形成する基本の考えとなった。

以上を鑑み、下記の2つをこれからの研究のテーマとする。

〈研究テーマ〉

1. コミュニティとその持続可能性（サステナビリティ）に関する

研究

2. モロッコからポルトガルを経てスカンジナビア, それぞれの地における人と自然とのかかわりの中で形成された都市・コミュニティの特徴の調査研究

以上の研究を目指し, 本研究では, “コミュニティとその持続可能性(サステナビリティ) に関する研究 序論” を報告する。

コミュニティとその持続可能性を評価する指標として考える住民の意識調査に関しては, 英国で用いられているビレッジアプレイザル (Village Appraisal), アメリカ等で用いられているCSA (Community Sustainability Assessment) を選択した。内容は, 筆者らによる日本でのパイロット調査をもとに, 本報告の本文にまとめている。また, コミュニティの求める豊かさを示すQOL (Quality of Life) に関しては, その目指すべき理念を米国及び日本の例を参考資料として取り上げ報告する。

1. 持続可能な (サステナブル) コミュニティとは

1.1 人々の希求 (パラダイムのシフト)

2000年頃から日本においては, 1980年代の高度成長期の右肩上がりの明日を信じた活力溢れる男時から, 日々の暮らしを大事にし, 現在 (いま), この瞬間に充足することに専心し, 不安な気持ちからの逃避を図る, 或いは, 新たな出会いを求めて旅に出る傾向の女時へと向かっている。先進諸国に於いても, このような女時的な感覚が, 1973年の第一次オイルショック以降, 技術文明の成熟というプロセスによりヨーロッパからアメリカそして日本と順に始まったと木村尚三郎先生は学士会会報 (平成9年11月号第109号) にて指摘している。世阿弥の記した“風姿花伝”の中に, 役者の努力が認められ芸が伸びる時を「男時 (おどき)」, 逆にどんなに精進しても認められない時が「女時 (めどき)」とある。

さて, 都市は, 歴史上, 最初に農業, 次に機械の出現によって大きく変

動した。現在は、技術の成熟期、或いは、第3の時代“ポスト産業（工業化）社会への移行の過程である。従来、エネルギーや資源が廉価で豊富に供給され、エネルギーの大量消費や自動車の増大で都市は郊外に無制限に拡大を続けた（スプロール）。ところが、物価の上昇、公害の発生、資源の有限性の認識、生態系に対する関心の高まりなどにより、工業化社会は終焉し、大量消費経済から情報経済への移行が促進された。このような中で、資源の浪費を抑制し、持続的な生産可能量と消費量がバランスする自立型の社会構造に変わってきている。今まで、切り離されていた人間の経済活動、生活と自然の生態系が、結び付けられて真の資源循環を可能にする社会を目指すようになってきたのである。

1987年ブルントランド委員会報告“*Our Common Future*”を経て1992年のブラジル リオデジャネイロで開催された国連地球環境会議で“*サステイナブル デヴェロップメント*”という言葉が認知された。この言葉の意味のひとつは、近代の工業化、都市化された環境により失われた、人と人との繋がり、人とコミュニティの繋がり、人と歴史の繋がりを取り戻すことである。近年、過度の開発により、私どもは、街を、文化を特徴づける我々特有の歴史、地域性、風土とのつながりを分断した事の反省によるものである。ふたつめは、街や地域の長期的な価値、およびそれらを構成するコミュニティの長期的安全性を重要視する考えである。短期的な経済性の追求でなく、長期にわたり社会経済の発展を最適化する発展形態の追求を推進することである。これは、コミュニティのライフサイクル全体を考えて経済性を見て行こうとすることで、これまでコミュニティでは考えなかった公害にかかるコスト、リサイクルのコスト、廃棄物の処理コスト、資源の枯渇、利用にかかるコストを含めて考えるのである。このように、従来の技術開発によってもたらされた専門化、標準化、大量生産そして資源消費に支えられた技術中心、工業化社会から移行した脱工業化社会（成熟社会）においては、多様な考えの統合（インテグレーション）、独自性（アイデンティティ）、等身大（ヒューマン スケール）、そして情報集約型の技術

が重要視されるようなパラダイムのシフトが生じた。

このようなパラダイムのシフトにより女時の巡るヨーロッパ、アメリカそして日本とサステイナブルな（持続的な）コミュニティを実現し、豊かな QOL (Quality of Life) を希求する動きが出てきたのである。

1.2 経済のシステムから持続可能なコミュニティを考える

持続可能な（サステイナブル）コミュニティの基本は、“強いコミュニティの創造”であり、又、コミュニティの持続を目的とする“サステイナビリティの追求”である。前者は、人と人とのつながり、我がまちといえるまちづくりをすることによりコミュニティに愛着をもたせ、民主主義の原点と言えるフレンドシップの確立をはかるものである。後者は、画一的な技術に対する反省、効率だけを求めた超過密都市に対する反省に立って、半永久的に持続するコミュニティをつくろうとするものである。資源の浪費を抑制し、持続的な生産が可能な量に見合うような消費量になるようにし、社会構造を自給的なものに変えて行く事を意味する。域内での光合成、生物学的腐敗、生命を営む生化学的プロセスをとおして、エネルギーや物質の使用量と域内で供給できる量を均衡させることを究極には意味している。生活空間としてのサステイナビリティを高め、社会システムとしても強いコミュニティを作ろうとするものである。ソフト、ハード両面で現代にふさわしい新しい枠組みを目指すことです。アメリカの都市計画家であるピーター カルソープ氏によれば、コミュニティのありかたを以下のように語っている。“Socially progressive”, “Economically Feasible”, “Ecologically sound”

さて、サステイナブルなコミュニティとは、どのようなコミュニティをいうのであろうか？人が集まり、その賑わいが小売り等ビジネスを呼び、お金が落ちてゆくコミュニティなのであろうか？常に、外からのコミュニティという市場に貨幣の流入があり、都市或いは、コミュニティを運営する役所のスタッフを賄い、高機能な社会インフラを実現させる、人々がそ

のコミュニティへ行くことを希求し、ブランドとしてその地に住むことが他の人々の羨ましさを増長させる、そのようなコミュニティの実現であろうか？或いは、域内への貨幣の流入などなく、住人間の物々交換に似た経済が成り立ち、貨幣で外から求めるものは希であり、お互いに見知った者が住み、外部に依存しない、コミュニティであろうか？外に開かれた市場経済型のコミュニティ、一方内部でサービスが循環し外部の市場経済依存の少ない域内循環経済型のコミュニティのこれらをもって、どちらが持続可能である(サステナブル)、人々の強いネットワークがある、また、循環型の経済であると言うのであろうか？前者が市場メカニズムを積極的に導入し市場主義によるアメリカに多い都市型サステナビリティの追求であり、後者がヨーロッパに多くみられる地域通貨等を用いてのコミュニティ内、或いは幾つかのコミュニティの連携した地域内での通貨、サービスの循環による地域型サステナビリティの追求といわれる。日本においてのサステナビリティを追求した例は、17世紀から19世紀の半ばまでの江戸時代にみることができる。鎖国をしており、国外の擾乱要因を遮断し、国内の平穏を保ち、世界に希に見る平和で安全な経済社会を実現していた。生活水準は、高くなかったが、江戸時代の欧米との比較研究で知られるスーザン ハーレーによれば“1850年の時点で私が裕福ならイギリスに、労働者階級なら日本に住みたい”と当時の日本の生活レベルに言及している。当時の日本は、世界にも希な循環社会を実現していた。中央政府の官僚機構も肥大しておらず各地域は地域主権が確保され、江戸、大阪、京都の都市を中心に各地で独自文化が花開いた。しかし、支配層である武士は財政的余裕が無かったため、コミュニティの運営は住民の自治組織にゆだねられていた。向こう三軒両隣とよばれる近隣組織が地域の安全を守っており、住民のボランティア的行為によって支えられていたのである。農村部は、家畜を飼育していたので排泄物は多く、これらは、土地に還元して農作物を育てるエコロジカルな生活様式が根づいていた。また、田植え等を共同で行い、自然に社会性が育まれて、コミュニティが成立していた。都市と

農村の間では、人糞は肥料として農村に運ばれ、野菜などが生産されて都市へと出てきたのである。一方、パリでは、同じ頃、汚水がセーヌ河に流れ込み悪臭を放ち、ペストさえ発生したとされている。一方、江戸の隅田川では、白魚等が棲み、江戸前として寿司のネタになっていたのである。日本の多くの(約6割)の都市は江戸時代に起源をもち、約400年の歴史と骨組を持っていた。又、歴史に裏付けされた地域文化としてのアイデンティティを持ったコミュニティであった。そして、第2次世界大戦の敗戦以降、工業化に向かう急速な社会資本整備拡大の過程で環境への配慮や伝統、固有な文化、歴史が無視されるようになったのである。

これからのコミュニティ形成は、まちをハードな施設である物理的環境(フィジカル エンバイロメント)としてみるのではなく、そこに生活する住民のネットワーク、人間性、性格を育む社会的環境(ソーシャル エンバイロメント)、精神的環境(メンタル エンバイロメント)としてみるべきである。また、私どもが忘れてはならないのは、人間自身が動物として本能的に行う環境への順応、共生(アフォーダンス)という行為である。私達の体は、周辺的环境に適応できるように(周辺環境からの負荷に耐える事ができるように)変化するのである。このような動物としての本能も認識するべきである。我々の開発した技術により快適さは増したが、エコロジーの視点からすると環境負荷が増大し、動物として変わり行く環境への順応力を失ってきている。人間の経済活動と自然の生態系を結びつける都市生態学(社会インフラの中に機械的な下水処理、空気の清浄でなく、廃棄物の生物を用いたりサイクル、光合成、などの生物学的な循環を推進する分野)の活用が重要である。

また、単一のコミュニティの持続可能性(サステナビリティ)を追求すると同時に、ひとつのコミュニティ内では循環できない機能を幾つかのコミュニティが連携した広域での循環システムも、コミュニティ経営からみて考えなければならない点である。ごみの収集、焼却処理、地震などへの防災対策、美術館、遊園地など文化、娯楽施設の設立、広域での自然保

護区（都市成長境界の設定）などの土地利用計画，都市間交通など広域で計画されるべきである。また，これら市町村をつなぐ交通系（LRT等）を考える事で，広域な経済圏，文化圏を確立してゆく視点も必要である。時として，コミュニティの自立を促進する経済の域内循環とコミュニティの広域連携内での循環の間での対立も顕在化するが，自然環境の保全や前述の機能別広域連携の促進が新たな協力を創り出すのである。これらを実現するには，そこに生活し，住む人々のコンセンサスを得ることが基本的要件である。

2. コミュニティの持続可能性（サステナビリティ）の評価を考える

2.1 持続可能性の評価に用いる住民の意識調査

欧米において，工業化社会から成熟化社会への移行を推進したのは，多様な価値観を有する社会起業家（ソーシャルアントレプレナー）と呼ばれる自律した個人達とされている。異なる価値観をそれぞれ有する個人，ともすれば対立する人々を包含して協働に向かわせるプラットフォームとしての持続可能な（サステナブル）コミュニティ創造のプロセスに着目する必要がある。自分の生き方を追求することが皆の豊かな生き方を実現してゆくことになるという価値観，目標を皆で協議しながら，より豊かなQOLを目指して試行錯誤を繰り返すプロセスが，持続可能なコミュニティを醸成する。このようなコミュニティづくりのプロセスにおける住民の意識調査が，現実に即したコミュニティの持続性可能評価の指標となると考え，以下に記す2つの意識調査を試行した。現状のコミュニティが持続可能であるかとの評価を自分たちで行い協議を進めるプロセスでの意識調査が，CSA，ビレッジアプレイザルの基本となる評価手法である。

CSA（Community Sustainability Assessment）は，デンマークに本部をおく，GEN（Global Eco-village Network）のアメリカの支部であるENA（Eco-village Network America）が提示したもので，1995年に英国のスコットランドに位置するエコビレッジのフィンドホーン共同体で最初

に実施され、その後、世界相当数のエコビレッジ(エコロジカル コミュニティ)で展開されている。一方、英国内で既に実施数が約1500となる、ビレッジアプレイザル(Village Appraisal)は、NEF(New Economic Foundation)などにサポートされて、現英国の地域行政システムの評価の根幹を担うまでになっている。1998年に発表された“イングランドにおける政府セクターとボランティア・コミュニティ セクターとの関係についての協定”などで期待される住民主体の地域政策の基本ツールとして住民の意識調査に基づく評価手法が、地位を得てきているのである。

筆者は、NPO 法人サステイナブル コミュニティ研究所 (<http://www.susken.org>) 所長として上記の手法を用いて日本におけるコミュニティの持続可能性の評価に関する調査を行い調査概要を以下に記すものである。

2.2 長野県飯綱町における持続可能性の評価に関する調査

1. 調査の概要

1-1 背景と調査の概要

2005年10月1日に誕生した飯綱町では、これから1年をかけて、今後10年間の指針となる“第一次住民の意識調査を実施することになった。

この意識調査を実施することにより、飯綱がもつ資源(ひと、もの)に関する様々な“仮説”(飯綱は〇〇のような資源を持っているのではないか、など)の発見が可能と考えられる。飯綱町では、発見された仮説をさらに検討し住民の希求として総合計画に反映させる予定である。

また今回の調査では、“ビレッジアプレイザル”というツールを日本で初めて活用することによって、従来の意識調査以上に住民の問題意識を浮き彫りにすることを目指したのである。

このビレッジアプレイザルは英国で開発され、広く住民の声を集めるツールとして多くの実績を残している。これらより町の持続性を評価する指標の可能性を探った。

(調査に用いたビレッジアプレイザルの飯綱町簡易版は、参考資料2に添

付している。)

1-2 調査結果の概要

飯綱町ではこの結果をベースに、住民参加によるワークショップなどを開催しながら合併後の総合計画作成の検討を重ねていく予定である

1) 記述統計分析の結果について (図 2-2 参照)

まず記述統計分析(度数分布)の主な結果は下記の通りである。

①実質 6 ページのアンケート(参考資料 2 参照)にも関わらず、60%超の高い回答率ということから、地域づくりに対する飯綱町住民の認識の高さとともに、期待が高いことが推測される。

②男性に比べて女性の回答率が高い結果から、地域づくりに意見のある女性が多いことが推測される。

次に記述統計分析(クロス集計)では、『年齢別』と『出身地域別』の回答に特徴が現れる結果となりました。例えば、次のような内容である。

①年齢が高くなるほど、地域に対する愛着が高く、かつ満足度も高くなる傾向にある。反面、年齢が若くなるほど相対的に満足度が低いようである。

②県外から移り住んできた住民は、合併前の旧三水村や旧牟礼村出身者に比べて客観的に飯綱町を観察していると思われる。

以下の質問のカテゴリー(A-H)ごとに『年齢別』、『出身地域別』における回答の差異の有無を検討した。

A 飯綱への思い

B 飯綱町での住民活動

C 飯綱の観光や産業

D 飯綱の利便性

E 飯綱の学習や文化活動

F 飯綱の子育て環境

G 飯綱の健康や福祉

H 飯綱の環境衛生や安全

2) 推測統計分析について

現状では、推測統計分析は単相関分析に留まっています。この単相関分析よると各種活動に参加をしている住民よりも、『今後参加をしたい』と考えている住民の方がまちづくりのための新たな負担に対して、前向きに捉える傾向があるということなどが示唆されている。今後、住民のニーズに応じて、重回帰分析や分散分析などの多変量解析を実施することにより、飯綱の様々な地域資源に関する仮説を浮かび上がらせることが可能になると考えている。

2. ツール（ビレッジアプレイザル）について

2-1 英国発のツール

今回の調査のベースとなるビレッジアプレイザル（Village Appraisals）は、地域の資源を発見するために、英国で開発されたツールである。このツールは、英国内の約1500のコミュニティにおいて活用されている。

このビレッジアプレイザルは、合計324の基本質問項目で構成されている。

単純に324項目のアンケートを配布してデータを集めるのではなく、住民と一緒にディスカッションをしながら実施方法や質問項目を絞り込んでいく。ビレッジアプレイザルでは、その住民参加のプロセスを大切にしているのである。

今回は、特定非営利活動法人サステイナブル コミュニティ研究所がその324項目を翻訳し、飯綱町に合わせて修正を加えたものをベースに調査を実施している。

2-2 主な特徴

このビレッジアプレイザルの主な特徴は次の2点である。

①調査のすべてのプロセスに住民が関与する

従来、多くの自治体で実施している住民の意識調査では、自治体が用意したアンケート用紙が各戸に配布され、記入のところだけ住民は参加し、

集計や分析、結果の検討はすべて自治体（シンクタンクなど）が実施するというものである（図1-1）。

一方、ビレッジアプレイザルでは、質問項目の作成、実施方法の検討、結果の検討にまで住民が参加する点である（図1-2）。

住民の参加によって、調査がより住民の意識に近づくとともに、調査結果に対する住民の信頼や説得力の向上が期待できる。

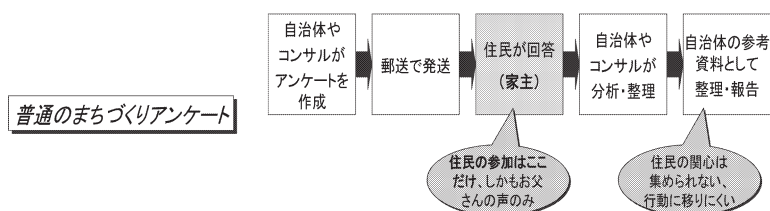


図1-1 従来の意識調査

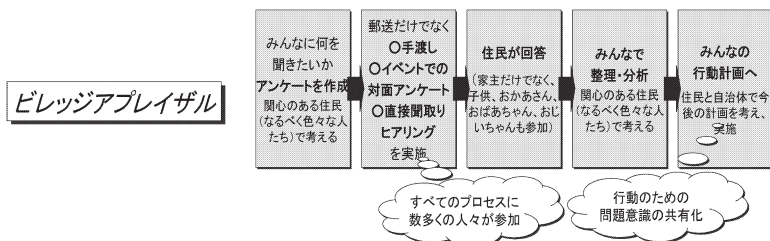


図1-2 ビレッジアプレイザル

②子供（12歳以上）や高齢者など、できる限り広く意見を集める

従来の住民の意識調査では、基本的に“世帯主（お父さん）”に対して実施されるものがほとんどであった。

それに対してこのビレッジアプレイザルでは、子供や高齢者（被扶養者）の意見も大切な住民の声として位置づけている。そのため、ビレッジアプレイザルを活用することによって、子供や高齢者の声を吸い上げることが可能となるのである。

3. 調査実施方法

3-1 概要

調査ステップで示した住民参加で作成したアンケート質問票は、12歳以上の全住民から無作為で抽出された1000人を対象に、郵送によって配布されている。

今回のサンプリングの流れを図2-1に示す。

このような無作為抽出に基づく郵送調査法を用いることによって、日頃は町民活動に参加していない住民の声も広く集めることが可能となる。これは1000人の声を統計的に分析することによって、結果がおおよその住民の声と推測することが可能となるからである。

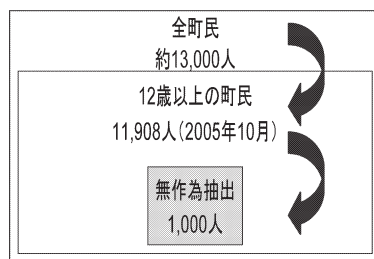


図2-1

3-2 サンプリングフレーム（調査台帳）

今回の調査のサンプリングフレーム（調査台帳）は、2005年10月の住民台帳に記載されている12歳以上の町民を対象とし、その中から無作為に

	総対象数	割合	男	女	抽出数	回答数	回答者の割合	男	女
12歳-19歳	1,183	9.9%	653	530	99	51	8.2%	54	45
20歳-29歳	1,378	11.6%	709	669	116	55	8.8%	60	56
30歳-39歳	1,262	10.6%	639	623	106	61	9.8%	54	52
40歳-49歳	1,586	13.3%	810	776	133	86	13.8%	68	65
50歳-59歳	2,227	18.7%	1,166	1,061	187	132	21.2%	98	89
60歳-69歳	1,690	14.2%	832	858	142	105	16.9%	70	72
70歳以上	2,582	21.7%	1,043	1,539	217	133	21.3%	88	129
合計	11,908	100.0%	5,852	6,056	1,000	623	100.0%	492	508

図2-2 サンプリング

1000人を抽出している。

図2-2には、回答数も合わせて示している。返送された回答数が677通、

そのうちデータとして650通である。その650通の中で、年齢が未回答であった27通を除いて、623通が示されている。

2.3 広島県内の2地区における持続可能性評価の調査

1. 調査の概要

CSAを用いて中国地方内の2つの中山間地域において意識調査を試行して、持続可能なコミュニティづくりを住民自らが評価し持続可能なコミュニティの形成を行っていく動機づけとなることを目指した。

CSA（コミュニティの持続可能性評価とは

Community Sustainability Assessment / Developed by Global Eco-village Network）について

CSAは自らのコミュニティの持続可能性を図り、その確認作業のプロセスそして結果から、コミュニティに対する理解を深め、コミュニティの長所・短所を浮き彫りにして、さらなる持続可能性へ向けての方策を練るためのツールとして、ENA（エコビレッジ・ネットワーク・アメリカ Eco-village Network America）がコーディネーターとなり、世界的なエコビレッジのネットワークである GEN のために開発されたものである。CSAは従来の評価ツールと比較すると、次のような特徴がある。

- ① 専門家による科学的手法を用いた調査ではなく、そこに住む住民自らが主体となって自らの居住区をチェックする主観的（質的）な方法である。
- ② 環境の一面だけでなく、社会、経済、精神、文化の側面からの評価が包括的に組み込まれている。
- ③ 住民参加型の評価ツールであり、住民自ら評価することで、評価のプロセスを通して住民に気づきをもたらすものである。
- ④ 評価後に、住民たち自らが評価を基に、自分たちで長所・短所を

理解した上で、コミュニティの持続性を検討することができる。

“環境評価ツール（CSA）を活用した 循環型地域づくりの可能性”より

2. 2つの中山間地の抽出

中国地方において持続可能なコミュニティづくりを進めるためには、中国地方が直面する諸課題のうち(1)人口減少、少子高齢化の影響、(2)都市と中山間地域の格差の拡大、(3)地方分権をめぐる動向とその影響について考察した結果、コミュニティの持続可能性を評価するケーススタディ地として広島県内の中山間地域（広島県高宮町（現安芸高田市高宮町）、広島県加計町（現安芸太田町））を抽出した。

3. CSAの調査内容

CSA は(1)環境、(2)社会・経済、(3)文化・精神の3つの側面と、各大項目に対応する7つの項目から構成され、自らのコミュニティの持続可能性を評価するのである。各大項目は次のような視点から、住民がコミュニティの現状をワークショップ方式で討議し確定した各項目のトータルのポイントにて評価する設計となっている。

3.1 環境面の視点

- ・ 人々が自らの住んでいる地域に深い関係を持っている。その地域の境界や長所、短所、リズムなどを明確に理解し、人間がその生態系の一部として、共同体として調和して生活を営んでいる。
- ・ 人々が自然界そのもの、そしてその体系と変遷に敬意を表していること。野生生物や植生の生育地が保護されている。
- ・ 食料は基本的に地元の生命地域圏から生産された有機栽培の（＝農薬などで汚染されてない）もので、バランスのある栄養を供給できるものである。

- ・ 建物は自然環境と融合し、それらと補完関係にあるように設計され、自然で、生命地域圏内から調達された、環境に負荷の低い（再生可能な、毒性のない）原料と建築方法を使う。
- ・ 廃棄物の消費と排出が最低限に押さえられている。
- ・ きれいな、再生可能な水の供給が可能であること。コミュニティはその水の供給源の環境状態に対する認識を持ち、それに対し配慮、保護、維持をしている。

3.2 社会・経済面の視点

- ・ 人々がコミュニティでの生活に安定と活力を感じる。個人が全体の恩恵のために自由に考えを述べるができることに、安全性と信頼の基礎があること。
- ・ 支援、コミュニケーション、人間関係および生産力を最大限に生かすための、空間とシステムが利用可能である。
- ・ 多様性が、自然環境、およびコミュニティの関係の中で、健康・活力および創造性の源として大切にされている。
- ・ 物事や人間に対する受容および透明性は、多様であることの素晴らしさに対する理解を深め、環境および社会経験を豊かにし、公正を促進する。
- ・ 個人の成長、学習および創造性が評価され育まれる。様々な教育の形を通じて、教えたり、学んだりする機会は、すべての年齢グループに利用可能である。
- ・ 資源の循環（資金・品物およびサービスの提供および受け取り）はコミュニティのニーズと願望を満たすためにバランスが取れている。また、余剰は分かち合われる。

3.3 文化・精神面の視点

- ・ 地域の精神的側面は、文化的な活力によって支えられている。文化は

創造活動を具現化したものであり、祝祭などは地元神なども深くかかわりを持つ。そういった祭などを絶やさないことが文化と精神性を守ることになる。

- ・ 宗教の信仰も人それぞれである。それらのどれもが脅かされることなく、敬い支援する姿勢と意識がコミュニティ内にある。
- ・ 自己啓発に対する機会がいくつも用意されている。
- ・ 地域の伝統的な儀式や祭に参加することで、地元神に感謝し、守っていただき、生かさせていただくことへの喜びと、そうした精神的な活動を共有する地域の人々に対して連帯感の意識が強化される。
- ・ 地域内で難題が持ち上がった時に、それらに対して柔軟に対応するだけの高い意識を地域全体で持っている。または、無理なくそういうことに対処できるような、意識の向上のための訓練などに地域全体で前向きに取り組んでいる。

3. 調査結果の概要

次の図表(図3)に示すように、高宮町川根地区と加計町川北地区の調査結果(地区平均)を比較すると、総得点では川根地区が川北地区を約140ポイント上回った。各側面でみると、すべての側面で川根地区が川北地区を上回っている。環境面、文化・精神面では50~60ポイントの格差があるが、社会・経済面ではその格差は小さく18ポイントであった。今回の調査結果では、総合得点やそれぞれの側面における評価はいずれも高宮町川根地区が加計町川北地区を上回った。高宮町川根地区は、30年近く組織的に地域づくりを取り組んできた地域であり、環境面にも力を入れた活動が続けられている。各側面の個別項目をみると、地域間の格差は小さく、明確な格差が確認される項目はわずかであった。

(今後の課題)

今後の課題としては、持続可能性(サステナビリティ)を、意識調査

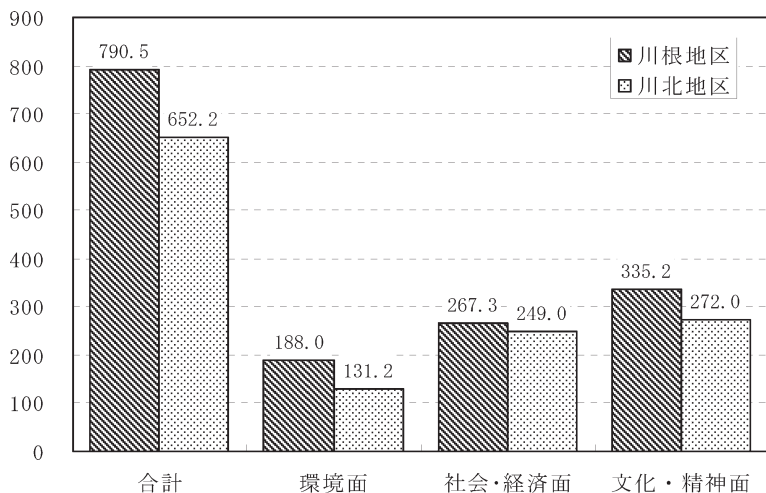


図3 得点の地区間比較（合計，3つの側面別）

と具体的にどのように関係付けてゆくか，様々なコミュニティ形成のプロセスで長期的に行い，他の様々な調査手法（ビレッジ アプレイザル等）と比較してゆくことが大事であると考えている。

4. まとめ

本報告では，持続可能な（サステナブル）コミュニティとは，どのようなコミュニティか。又，住民の意識調査はコミュニティとその持続可能性（サステナビリティ）の評価指標になると考えられるか。これらを考えて住民の意識調査を試行した。調査については，2つの異なる手法であるビレッジアプレイザルとCSAを用いて2006年は長野県飯綱町，2004年は広島県の2つの場所（安芸高田市高宮町高根地区，安芸太田町川北地区）にて（NPO法人）サステナブル コミュニティ研究所，（社）中国地方総合研究センターと共に行った。住民の意識調査は，それぞれ英国，米国にて実績のある調査ではあるが，今回の試行から生活様式，社会意識の異なる日本での適用には，今後に向けていくつかの課題を与えられた。

結論としては、

1. 住民の地域づくりへの意識の高いのは、高齢者、女性であり、満足度も高いようである。一方、年齢が若くなると相対的に満足度が低い傾向にある。
2. 長く環境先進地域としてまちづくりに取り組んだが、環境面でのポイントは思ったよりもポイントは少なく、環境を良くすることにより、人々の文化精神面でのポイントに顕著に高いポイントが出てくる。文化精神面での意識調査の重要性を示唆された。
3. 住民による主体的なコミュニティ再生への活動と協働が、持続可能性を生み出す基本であると確認した。
4. 今回は単相関分析にとどまっており、今後の住民のニーズに関して多変量解析の実施が必要と思われる。

国内外で“まちづくり”，“豊かな生活環境＝より良い QOL (Quality of Life)”の必要性が、声高に唱えられる中で、評価指標として、国連開発計画 (UNDP) の用いる人間開発指数 HDI (Human Development Index)＝一人あたりの国民所得のみでは、筆者は十分ではないと考えている。より良い QOL を目指すための住民参加、自己責任、市民としての社会意識の向上、多様な人々の連携、協働等により創出されるコミュニティの持続可能性 (サステナビリティ) を示す指標として2006年と2004年に試行した2つの異なる住民意識調査が、これからも広く用いられてゆくための研究を今後も追いつけること、これにより多様な地域文化を醸成する豊かなコミュニティが住民により再生されてゆくことを目指すものである。コミュニティ崩壊の危機、社会崩壊の危機を回避する一つの方法として、過去からの文化の継承、豊かな QOL を目指して培われてきた知恵を紐解くことも、併せて、将来に向けての新しいコミュニティ再生の一助になることを付記する。

参考・引用文献

- P. Calthorpe (1993) *The Next American Metropolis* Princeton Architectural Press
- ジェラード・デランティ (2006) コミュニティ NTT 出版
- 福田由美子, 川村健一他 (2002) NIRA 研究報告書“環境評価ツール (CSA) を活用した 循環地域づくりの可能性” (財)中国地方総合研究センター
- 石川英輔 (1999) 大江戸ボランティア事情 講談社文庫
- エリアス・カネッティ (1973) マラケッシュの声 法政大学出版局
- 川村健一・小門裕幸 (1995) サステイナブル コミュニティ 学芸出版
- 川村健一・石神隆 (1998) 新都市 第10号 “サステイナブルコミュニティづくり” 都市計画協会
- 川村健一 (2002) 土木学会誌 2月号論文 “都市経営から見たサステイナブル コミュニティ” 土木学会
- 川村健一 (2002) 家とまちなみ20巻1号 “背景にあるアメリカのまちづくりの流れ” (財)住宅生産振興財団
- 川村健一・大枝奈美 (2002) 環境情報科学34巻1号 “持続可能な地域づくりの評価指標”-CSA を中心として (財)環境情報科学センター
- 川村健一 (2002) 宅地とまちづくり No. 192 “サステイナブルコミュニティからリージョナルシティへ” (財)日本宅地開発協会
- 木村尚三郎 (1997) 学士会会報109号 “しあわせの物差しが変わった”
- 小門裕幸 (2002) 宅地とまちづくり No. 192 “サステイナブルな考え方とソーシャルキャピタル” (財)日本宅地開発協会
- S. V. Ryn & P. Calthorpe (1986) *Sustainable Communities* Sierra Books
- 堺屋太一 (1994) 都会国日本像 PHP 研究所
- B. Walter (edited) (1992) *Sustainable Cities Eco-Home Media*
- 矢作弘・岡部明子 (1999) 世界 2月号 “21世紀の都市戦略” 岩波書店

参 考 資 料

参考資料1：持続可能な（サステイナブル）コミュニティの理念

1章で述べましたように、持続可能な（サステイナブルな）コミュニティには2つの基本的な考えがあります。ひとつは、強いコミュニティの創造であり、もうひとつは、コミュニティの持続性を目的とするサステイナビリティの追求です。豊かな生活QOLを創出するコミュニティの理念を 筆者の著書“サステイナブル コミュニティ”より、アメリカのアワニー宣言、NPO 法人サステイナブルコミュニティ総合研究所を中心として先進的なまちづくりを進める青森県 (現) むつ市大畑町の大畑原則

から記載します。

(1) アメリカにみるコミュニティの理念：アワニー宣言

序言

現在の都市および郊外の開発パターンは、人々の生活の質に対して重大な障害をもたらしている。

従来の開発パターンは、以下のような現象をもたらしている。

- ・自動車への過度の依存によってもたらされる交通混雑と大気汚染
- ・誰もが利用できるような貴重なオープンスペースの喪失
- ・伸びきった道路網に対する多額の補修費の投入
- ・経済資源の不平等な配分
- ・コミュニティに対する一体感の喪失

過去及び現在の最良の事例に依拠することによって、コミュニティのなかで生活し、働く人々のニーズに的確に対応するようなまちを作り出すことが可能である。そのようなコミュニティをつくりだすためには、計画書策定の段階で以下のような原則を遵守することが必要である。

〈コミュニティの原則〉

1. すべてのコミュニティは、住宅、商店、勤務先、学校、公園、公共施設など、住民生活に不可欠な施設・活動拠点を併せ持つような多機能で統一感のあるものとして設計されなければならない。
2. 出来るだけ多くの施設が相互に気軽に歩いていける範囲内に位置するように設計されなければならない。
3. できるだけ多くの施設や活動拠点が、公共交通機関の駅・底流所に簡単に歩いてゆける距離内に整備されるべきである。
4. 多様な経済レベルや年齢の人々が、同じコミュニティ内に住むことができるように、様々なタイプの住宅が供給されるべきである。
5. コミュニティ内に住む人々が喜んで働けるような仕事の場合、コミュニティ内に産み出されるべきである。
6. 新たに作り出されるコミュニティの場所や性格はコミュニティを包含する交通ネットワークと調和とれたものでなければならない。
7. コミュニティは商業活動、市民サービス、文化活動、レクリエーション活動等が集中的になされる中心地を保持しなければならない。
8. コミュニティは、広場、緑地帯、公園などの用途の特定化された誰もが利用できる十分な面積のオープンスペースを保持しなければならない。場所とデザインに工夫を凝らすことでオープンスペースの利用は促進される。
9. パブリックスペースは、日夜いつでも人々が興味をもって行きたがるような場所として設計されるべきである。

10. それぞれのコミュニティや幾つかのコミュニティがまとまったより大きな地域は、農業のグリーンベルト、野生生物の生息境界などによって明快な境界を保持しなければならない。また、この境界は開発行為の対象からは外すようにしなければならない。
11. 歩行者用道路や散歩道、自転車道路などのコミュニティ内の様々な道路は、全体として相互に緊密なネットワークを保持し、かつ、興味をそそるようなルートを提供するように形成されなければならない。建物、木々、街灯など周囲の環境に工夫を凝らし、自動車利用を制限する小さく細い道路にして徒歩や自転車の利用を促進するものでなければならない。
12. コミュニティの建設前から敷地内に存在していた天然の地形、排水、植生は、域内の公園やグリーンベルトの中など可能な限りもとの自然のままの形で保存されるべきである。
13. 全てのコミュニティは、資源を節約し。廃棄物が最小となるように設計されるべきである。
14. 自然の排水の利用、旱魃に強い地勢の造形、水のリサイクリングの実施などを通して全てのコミュニティは水の効果的な利用を迫及しなければならない。
15. エネルギー節約型のコミュニティを作り出すために通りの方向性、建物の配置、日陰の活用などに十分な工夫を凝らすべきである。

(2) 日本青森県むつ市大畑町にみるコミュニティの理念：大畑原則

サステナブルコミュニティ総合研究所 大畑原則より

序言

かつての日本で縄文時代の“まほろば”を成立させたのは自然の恵み豊かな森と川と海だった。人は生き物を殺して食べることで自らの栄養とし、個体数を増やして今日まで発展してきたともいえる。しかし、18世紀初めの産業革命以降は、ヨーロッパで生まれた近代文明が全世界に広がり、森、川、海、大地を人間の都合だけを考えて“開発”し尽くしてきた。日本でも1950年代半ばからの高度経済成長期以降、自然が豊富だった農山漁村で森林伐採や河川改修、海岸護岸などの開発工事が行なわれ、農業の使用や減反政策に伴う田んぼの消失のため、蛸やトンボが群れをなしていたかつての牧歌的な故郷は存在しなくなったといわれる。こうした開発行為は生き物のためのビオトープ（生息空間）を奪い、食物連鎖の底辺であるプランクトンや微生物を減らし、昆虫、小動物、大型哺乳類など多くの生き物を絶滅に追い込んでしまった。こうした生き物の絶滅は、生き物を殺して食べなければ生きていけない人類にとっては死活問題のほうである。大畑原則では、縄文時代からの時間軸の発想によって現在の人間の活動を見直し、自然の多様性、循環性、柔軟性を損なうことなく、それでいて各人が一体感を持ったコミュニティの一員として伸び伸びと暮らしていける、新たなシステムを提案するものである。そこには海中林（海藻類）から河畔林、森林、街の

中の“恐怖の森”といった林系がつくられ、自然の循環システムに支えられたサバイバル・コミュニティ（生き残るための街）が出現する。その中で、縄文時代からの折り返し点として現代をとらえ、8000年後の未来に向けて、循環性、多様性、柔軟性、コスモロジー、ネットワークをキーワードに、想像力を刺激するマチを模索していこう。季節のリズムに合わせた生活とは何かを真に追求していこう。このシステムの追求こそがサスティナブル・コミュニティの前提となると確信する。

*大原則

「命を殖やす」～人間の活動を自然のストック資源を蓄積する方向に変えていくこと……樺を超えたコミュニティの創造を目指して。

*コミュニティの原則

1 《森、川、海、大地》

〈森〉は、獣が棲みつき神々が坐す「奥山」、建築用の木材を育てる「生産林」、薪炭材や腐葉土などを利用する「里山」に区分する。この区分によって人も含めたあらゆる生き物が棲みわけを可能とし、多様性と柔軟性に富んだ森のサイクルが回復することになる。また、木材及び薪炭材の地域内自給を目指す。「奥山」は手つかずの場として残す一方、「生産林」は、生態系に配慮して沢や尾根周辺を除きながら細分化。樹木成長のサイクルに合わせて輪伐サイクルを設定する。ここでは営林署がこれまでの知識、技術を総動員して山肌を痛めない伐採方法を実施。その一方でナショナル・トラストによって山林地を買い上げ、地域のストック資源を殖やす目的で植林運動を展開していく。「里山」では、薪炭材、腐葉土を自然のサイクルに合わせて生産していくシステムを確立する。「生産林」や「里山」の適度な利活用は、人や動物たちの食糧となるたくさんのキノコや山菜が成育する条件を整えることにつながる。また、水源かんよう、炭酸ガスの固定化など、森が果たすべき公益的な効果を増すように促していく。

〈川〉は、生態系に配慮した近自然河川工法の実践により、水田や畑、河畔林など後背地を含めた豊かな河川エリアを、生き物のためのビオトープ（生息空間）として復元する。さらに、数十年に1度は起きる大雨による河川氾濫を想定して、川の上流部に霞堤や越流堤を築いて“自然の氾濫”を誘導。これにより、下流域の市街地を洪水から守ると同時に、水の勢いを逆利用して後背地の土壌を肥よく化。ビオトープの多様性にも貢献させる。

〈海〉は自然のろ過器である砂浜を復元。テトラポットに替わる石組みの消波施設や

新方式の防波堤など近自然海岸工法を開発する。これらによって全ての浅海域に海中林（植物プランクトン、海藻類）を復活させ、港湾も船着き場以外の多様な役割を持たせる。また、自然のサイクルを利用して下水、生活雑排水の浄化を的確に行い、川や海に流れ込む水をきれいにする。さらに、イカの腑など水産加工によって生ずる廃棄物を飼料化して海に返し、魚たちの餌とし、豊かな海中林の繁茂に貢献させるなど陸と海との循環サイクルを回復する。

〈大地〉NPO（非営利団体）が遊休地を活用。木炭を土壌改良材に利用して無農薬、有機栽培で水田や畑を耕作し、食糧の地域内自給を目指す。水田や畑は、タニシ、ドジョウ、フナ、ホタルなど多様な生態系を復活させ、巨大な胃袋たる人間の生存を保証。同時にトトロが棲みつく余裕のある空間を生むことになる。農作業には老人や子どもの参加を呼びかけ、モノを育てる喜びや収穫する喜びを分かち合う。

〈水〉「洗濯などは水道水。飲み水は井戸水」というように、水道水と井戸水の両立を目指す。地下水が涸れたり、地盤沈下したりするのを防ぐため、自噴している井戸を共有してみんなで利用。非常時に備えていつでも飲める水質を維持する。井戸水は地上環境のバロメーターである。

〈大気〉フロンガスによるオゾン層破壊を防止するため、車のエアコンなどフロンガスや代替フロンガスは大気中に放出せずに回収する。ゴミゼロ社会を目指すことで焼却場からのダイオキシン発生を防ぐ。脱クルマによって炭酸ガスの排出を減らす。

参考資料 2：ビレッジアブレイザル 飯綱町簡易版

■ビレッジアブレイザル 飯綱町簡易版（抜粋、内容確認用）

	質問内容	ご回答
ご家族についてお答えください。		
A1	あなたのご家族は、子供を含めて何人ですか？	_____人
A4	今のお住まいは、あなたの主たる住居ですか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
今お住まいの住居について、お答えください。		
B6	この住居の種類は、どれですか？	<input type="checkbox"/> 民間賃貸 <input type="checkbox"/> 公営賃貸 <input type="checkbox"/> 公団賃貸 <input type="checkbox"/> 持ち家 <input type="checkbox"/> 杜宅 <input type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> その他

B7	この住居は、いつ建てられましたか（おおよそ）？	<input type="checkbox"/> 1900年以前 <input type="checkbox"/> 1901-45年 <input type="checkbox"/> 1946-70年 <input type="checkbox"/> 1971-80年 <input type="checkbox"/> 1981-90年 <input type="checkbox"/> 1991-00年 <input type="checkbox"/> 2001年以降
B13	ご家族のどなたか、あるいはご家族全員は、最近新しい住居を必要としていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
B24	お引越されたご家族は、もし機会があれば、飯綱町に戻って来たいと思っていますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
ご家族の移動手段について、お答えください。		
D29	ご家族が使用している自動車はどれですか？ （台数を記入してください）	<input type="checkbox"/> 普通車 ____台 <input type="checkbox"/> 軽自動車 ____台 <input type="checkbox"/> バン ____台 <input type="checkbox"/> バイク ____台 <input type="checkbox"/> トラック ____台 <input type="checkbox"/> その他 ____台
	E ご自身について	回答
	以前はどこにお住まいですか？	<input type="checkbox"/> （ ）に在住 <input type="checkbox"/> 飯綱町外● km以内 <input type="checkbox"/> ●-▲km <input type="checkbox"/> ▲km以上 <input type="checkbox"/> 海外
E42	飯綱町には、どのような理由で住み始めましたか？	<input type="checkbox"/> ここで生まれた <input type="checkbox"/> 仕事で <input type="checkbox"/> 身内が近隣に住んでいる <input type="checkbox"/> 農村生活が好きで <input type="checkbox"/> 田舎の生活が好きで
E43	何があなたを飯綱町にひきつけたのですか？	<input type="checkbox"/> 家族と一緒に <input type="checkbox"/> ここに仕事があった <input type="checkbox"/> 魅力的な地域だから <input type="checkbox"/> 定年を迎えたから <input type="checkbox"/> 家族の縁あって
E44	飯綱町について、あなたにとって最も大切なことは何ですか？	<input type="checkbox"/> コミュニティ <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 場所 <input type="checkbox"/> その他（具体的に ） <input type="checkbox"/> 特にない
E46	10年前と比べて、生活の質はどうになりましたか？	<input type="checkbox"/> 良くなった <input type="checkbox"/> 悪くなった <input type="checkbox"/> 同じ <input type="checkbox"/> 分からない

	F お仕事について	回答
F 49	主にどこで働いていますか？（場所）	<input type="checkbox"/> 村内（・・・） <input type="checkbox"/> 長野市内 <input type="checkbox"/> 長野県内 <input type="checkbox"/> その他
F 52	あなたが仕事を探している場合、どのくらいの期間お探しですか？	<input type="checkbox"/> 6ヶ月未満 <input type="checkbox"/> 12ヶ月未満 <input type="checkbox"/> 13-24ヶ月 <input type="checkbox"/> 25ヶ月以上 <input type="checkbox"/> 探していない
F 54	あなたがパートタイムで働いている場合、もっと働きたいですか？	<input type="checkbox"/> はい（パートタイムのままで） <input type="checkbox"/> はい（フルタイムで） <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない
F iii66	あなたは1年後、起業したいと思いますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
F iii67	あなたが起業したい場合、妨げていると感じる障害は何ですか？	<input type="checkbox"/> 立上げ資金不足 <input type="checkbox"/> 事業のスキル <input type="checkbox"/> 支援・情報不足 <input type="checkbox"/> 不動産不足 <input type="checkbox"/> 与信不足 <input type="checkbox"/> 専門的スキル
F iv71	起業したい場合、どちらの場所を選びますか？	<input type="checkbox"/> 飯綱町内 <input type="checkbox"/> 飯綱町外
F iv77	飯綱町内外ではどのようなことを推進すればいいですか？	<input type="checkbox"/> 観光振興・アトラクション <input type="checkbox"/> 中小企業振興 <input type="checkbox"/> 小さな製造業 <input type="checkbox"/> 飯綱町での仕事を増やす
	G 飯綱町の交通について	回答
G 84	飯綱町の他の地域に行くときに、交通で不便に感じることはありますか？	<input type="checkbox"/> よく感じる <input type="checkbox"/> 時折感じる <input type="checkbox"/> 全く感じない
G 99	あなたの主たる交通手段は次のどれですか？	<input type="checkbox"/> 自動車 <input type="checkbox"/> バイク <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> ・・・ <input type="checkbox"/> コミュニティバス <input type="checkbox"/> 鉄道
G 100	あなたがバスを利用する場合、何のためにどれくらい利用しますか？（1週間のうちおよそ何時間）	<input type="checkbox"/> 仕事＝ 時間 <input type="checkbox"/> 買い物＝ 時間 <input type="checkbox"/> 通院＝ 時間 <input type="checkbox"/> レジャー＝ 時間 <input type="checkbox"/> その他＝ 時間

G101	あなたが鉄道を利用する場合、何のためにどれくらい利用しますか？（1週間のうちおおよそ何時間）	<input type="checkbox"/> 仕事＝ 時間 <input type="checkbox"/> 買い物＝ 時間 <input type="checkbox"/> 通院＝ 時間 <input type="checkbox"/> レジャー＝ 時間 <input type="checkbox"/> その他＝ 時間
G127	飯綱町は歩行者のための施設は適切ですか？	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不足 <input type="checkbox"/> 意見なし
G128	飯綱町の舗装は身体障害者や車椅子にとって利用しやすいですか？	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不足 <input type="checkbox"/> 意見なし
	H 地域コミュニティについて	回答
H130	飯綱町の施設は、地域の人たちにとって利用しやすいですか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 意見なし
H131	飯綱町の学校は、地域の人たちにとってどれくらい重要ですか？	<input type="checkbox"/> とても重要 <input type="checkbox"/> 重要 <input type="checkbox"/> あまり重要ではない <input type="checkbox"/> 意見なし
H132	教育施設に関して、飯綱町には次のどれが必要ですか？	<input type="checkbox"/> 保育所 <input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> より多くの許可託児所 <input type="checkbox"/> 学童保育 <input type="checkbox"/> 休日の教育 <input type="checkbox"/> 成人用イブニングスクール
	J 健康について	回答
J151	あなたは次を利用するときに障害はありますか？	<input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 整形 <input type="checkbox"/> 眼科 <input type="checkbox"/> 歯科医院 <input type="checkbox"/> 他の医院
J152	あなたはこの1年間、飯綱町で次のサービスを受けましたか？	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 地域看護 <input type="checkbox"/> 訪問介護 <input type="checkbox"/> ホームヘルパー <input type="checkbox"/> 救急車 <input type="checkbox"/> 育児ケア <input type="checkbox"/> 医療向けローン
J159	友人や周囲の方は、次のような支援をしてくれますか？	<input type="checkbox"/> 着衣 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 買い物 <input type="checkbox"/> 料理 <input type="checkbox"/> 家事

	K 行政について	回答
K172	あなたは、飯綱町の次のような犯罪や反社会的行動を心配していますか？	<input type="checkbox"/> 盗み <input type="checkbox"/> 不良 <input type="checkbox"/> 芸術品の破壊 <input type="checkbox"/> 大酒のみ <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 心配していない
K187	分別収集されている場合、あなたは廃棄物からリサイクル品まで、いくつかに分類する必要がありますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない
K191	飯綱町の次の人たちのための施設は改善されるべきですか？	<input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> サイクリスト <input type="checkbox"/> 車椅子利用者 <input type="checkbox"/> 乳母車利用者 <input type="checkbox"/> 観光客 <input type="checkbox"/> その他
	L 地域の各種サービスについて	回答
L192	あなたはどのくらい次のお店やサービスを利用しますか？	<input type="checkbox"/> 商店街 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 郵便局 <input type="checkbox"/> 薬屋 <input type="checkbox"/> 調剤
L194	飯綱町の商店街の評価について、あなたの意見はどうですか？	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不足 <input type="checkbox"/> 意見なし
L195	あなたが飯綱町のお店を利用する場合、その理由は何ですか？	<input type="checkbox"/> 地元のお店は良いものがある <input type="checkbox"/> 地元のお店のフォローがいい <input type="checkbox"/> 地元の付き合いが好きだ <input type="checkbox"/> 時間の節約
L196	あなたが飯綱町外のお店を利用する場合、その理由は何ですか？	<input type="checkbox"/> 安い <input type="checkbox"/> 品揃えが豊富 <input type="checkbox"/> 仕事場から便利 <input type="checkbox"/> 学校から近い <input type="checkbox"/> 駐車場が近くにある <input type="checkbox"/> その他
L197	あなたはいつも次のどこで買い物をしますか？	<input type="checkbox"/> 食料雑貨店 <input type="checkbox"/> 八百屋 <input type="checkbox"/> 肉屋・魚屋 <input type="checkbox"/> 洋品店 <input type="checkbox"/> 日用雑貨店 <input type="checkbox"/> 電気店 <input type="checkbox"/> 本屋 <input type="checkbox"/> 家具屋

	M 飯綱町のスポーツについて	回答
M210	あなたは次の施設はどのくらい利用していますか？	<input type="checkbox"/> レジャーセンター <input type="checkbox"/> スポーツクラブ <input type="checkbox"/> クリケットクラブ <input type="checkbox"/> スイミングプール <input type="checkbox"/> プライベートクラブ
M211	あなたは次の場所での企画をどのくらい知っていますか？	<input type="checkbox"/> ユースクラブ <input type="checkbox"/> レジャーセンター <input type="checkbox"/> 村民会館 <input type="checkbox"/> スポーツクラブ
M212	参加するために、次のような困難を経験したことがありますか？	<input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 一緒に行く人がいない <input type="checkbox"/> 開始時間が不便 <input type="checkbox"/> 高価 <input type="checkbox"/> 車椅子が利用できない <input type="checkbox"/> 駐車場が不便
	N 余暇活動について	回答
N223	次の社会活動/余暇活動に関して、あなたはどこに参加していますか？	<input type="checkbox"/> アマチュア演劇 <input type="checkbox"/> ミュージカル活動 <input type="checkbox"/> イブニング教室 <input type="checkbox"/> ダンス <input type="checkbox"/> ビンゴ
N224	あなたは次の施設をどのくらい利用しますか？	<input type="checkbox"/> 飯綱町の映画館 <input type="checkbox"/> 飯綱町の芸術センター <input type="checkbox"/> 飯綱町のクラブ <input type="checkbox"/> 飯綱町のギャラリー
N226	あなたは次の活動にどのくらい参加していますか？	<input type="checkbox"/> ユース演劇クラブ <input type="checkbox"/> 絵画教室 <input type="checkbox"/> …
N227	参加するために、次のような障害を経験したことがありますか？	<input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 一緒に行く人がいない <input type="checkbox"/> 開始時間が不便 <input type="checkbox"/> 高価 <input type="checkbox"/> 車椅子が利用できない <input type="checkbox"/> 駐車場が不便 <input type="checkbox"/> 参加していない <input type="checkbox"/> その他
	O 飯綱町の情報について	回答
O239	あなたは飯綱町で開催されるイベントの情報をいつもどこで入手しますか？	<input type="checkbox"/> 情報版 <input type="checkbox"/> 区情報誌 <input type="checkbox"/> フリー情報誌 <input type="checkbox"/> 地域新聞 <input type="checkbox"/> 郵便局 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他
O241	あなたは、入手可能な飯綱町の行事情報の量についてどう思いますか？	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不足 <input type="checkbox"/> 意見なし

O 245	飯綱町の情報は、次の内容をもっと多く含むべきと思いますか？	<input type="checkbox"/> レジャー <input type="checkbox"/> 芸術 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 地域イベント
	P 飯綱町の村民活動について	回答
P 256	あなたは飯綱町役場が開催する会合などに出席したことがありますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
P 257	“はい”の場合、最近出席した飯綱町役場が開催する会合などはいつですか？	<input type="checkbox"/> この1年以内 <input type="checkbox"/> 1～2年以内 <input type="checkbox"/> 2～4年以内 <input type="checkbox"/> 5年以上
P 258	あなたは、地域の重要事項は議論されていると感じますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない
P 262	あなたはもっと多くの飯綱町の活動の情報がほしいですか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 分からない
	R 環境や自然について	回答
R 285	あなたは飯綱町の環境を保護したり、向上させるための支援をどのようにすべきと思いますか？	<input type="checkbox"/> リサイクル <input type="checkbox"/> 省エネルギー <input type="checkbox"/> 公共交通の改善 <input type="checkbox"/> 地域での堆肥活用 <input type="checkbox"/> カーシェアリング <input type="checkbox"/> 何もない
R 286	あなたにとって飯綱町の郊外の環境の質は重要ですか？	<input type="checkbox"/> とても重要 <input type="checkbox"/> 重要 <input type="checkbox"/> 特に重要ではない <input type="checkbox"/> 意見なし
R 287	飯綱町の郊外のどの要素があなたにとって価値がありますか？	<input type="checkbox"/> 空間そのもの <input type="checkbox"/> アイデンティティ <input type="checkbox"/> 静寂さ <input type="checkbox"/> 開放感
R 288	あなたは近年、飯綱町の郊外は変化したと感じますか？	<input type="checkbox"/> 良くなった <input type="checkbox"/> 悪くなった <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 分からない

	S まとめ	回答
S 321	この調査の結果はどのように知らせるべきですか？	<input type="checkbox"/> 報告書 <input type="checkbox"/> 報告会 <input type="checkbox"/> 各戸への案内配布
S 322	このアンケート調査から費用が必要な提案があった場合、どこから費用を出すべきですか？	<input type="checkbox"/> 民間の寄付金 <input type="checkbox"/> 地方税の節制による <input type="checkbox"/> 地方税の増税による <input type="checkbox"/> 基金募集 <input type="checkbox"/> スポンサー制度 <input type="checkbox"/> その他
S 323	あなたは飯綱町はどのような形で発展すればいいと思いますか？	<input type="checkbox"/> 働く人のコミュニティ <input type="checkbox"/> リタイアした人のコミュニティ <input type="checkbox"/> 通勤・通学の人のコミュニティ <input type="checkbox"/> 旅行者のコミュニティ